



2026年7月15日
一般財団法人企業活力研究所

サステナビリティ情報開示の評価と期待

Co-Crete Frontier 菊池勝也

自己紹介

氏名: 菊池 勝也 Co-Create Frontier LLC 代表

略歴: 1989年大和証券投資信託委託(現大和アセットマネジメント)入社。2013年まで約20年株式運用部門に所属しファンドマネージャーを務める。主として成長株ファンドやSRIファンドを担当。2013年に調査部へ異動し金融・医薬品セクターなどをカバーする。調査部長を経てスチュワードシップ活動を担当。2019年東京海上アセットマネジメントへ入社し マルチアセットの責任投資を統括。2025年4月企業と投資家による価値共創のサポートを目指し起業。経営戦略の立案、情報開示、IR活動等の支援、スタートアップ企業のアドバイザーなど資本市場に関連する分野で活動中。

著作: 「『対話』による価値創造 ESG・統合報告・資本コストをめぐる企業と投資家の協創」(2021年 日本経済新聞出版)
「『資本コスト』再考」(2022年 旬刊商事法務9月5日号)
「現代ビジネスエシックスと企業価値向上」(2023年 金融財政事情研究会:共著)
「サステナビリティ情報開示ハンドブック」(2023年 日本経済新聞出版:共著)
「Scope1・2・3開示ファーストステップ 利用者からみた開示の現状と期待する効果」(2024年 企業会計2月号)
「四半期開示見直し後の情報開示の現状と課題」(2024年 旬刊商事法務12月15日号)
「機関投資家によるスチュワードシップの実践と展望」(2025年 同文館出版:共著)
「金融・資本市場における経験としての学びー比較・相対化の技法ー」(金融・資本市場リサーチ 2025年11月号)
「企業からみた投資家との対話のあり方ー価値創造に資する能動対話への転換ー」(2026年 旬刊商事法務3月5日号)

委員等: 財務会計基準機構(FASF)「サステナビリティ基準委員会(SSBJ)」(設立～2025年3月)
経済産業省「持続的成長への競争力とインセンティブー企業と投資家の望ましい関係構築ー」(伊藤レポート)
経済産業省「なでしこ銘柄」選定委員
経済産業省「SX銘柄」選定委員
金融庁「(有価証券報告書)記述情報の開示の好事例に関する勉強会」
日本証券アナリスト協会「サステナビリティ報告研究会」
東京証券取引所「従属上場会社における少数株主保護の在り方等に関する研究会」

本日お伝えしたいこと

- ✓制度対応ではなく、価値創造ストーリーの構築を
- ✓開示のハブに「有価証券報告書」を

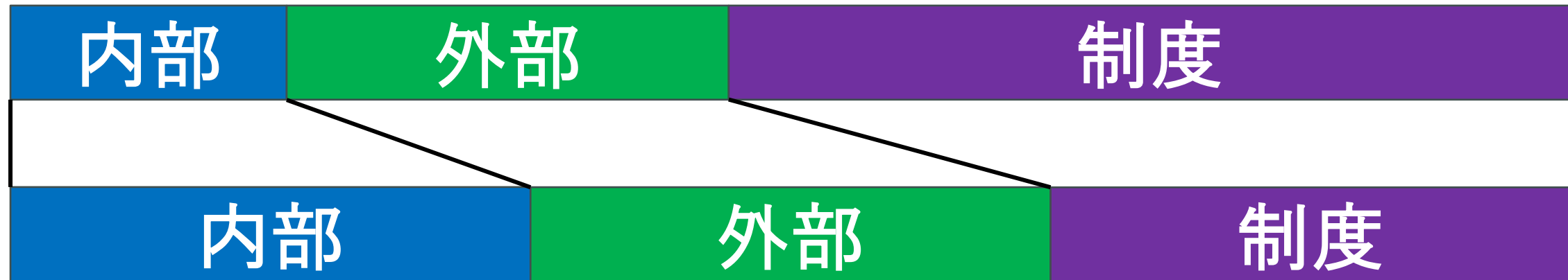
【脱制度対応】

「サステナビリティ」を考える視点の整理

- ✓ 内部要因 バリュー(企業価値)ドライバーの変化
⇒企業価値における「無形(見えない)資産」の拡大
バリューチェーンを直視する必要(企業バウンダリーの拡大)
- ✓ 外部要因 企業を取り巻く環境の変化
⇒気候変動、人権など企業を取り巻く外部環境の変化
ステークホルダーの変化(投資家だけではない)
- ✓ 制度要因 説明責任の強化
⇒グローバルに開示制度の整備が進展
一部バックラッシュの動きはあるが

取り組みの理想と現実

(現実?)



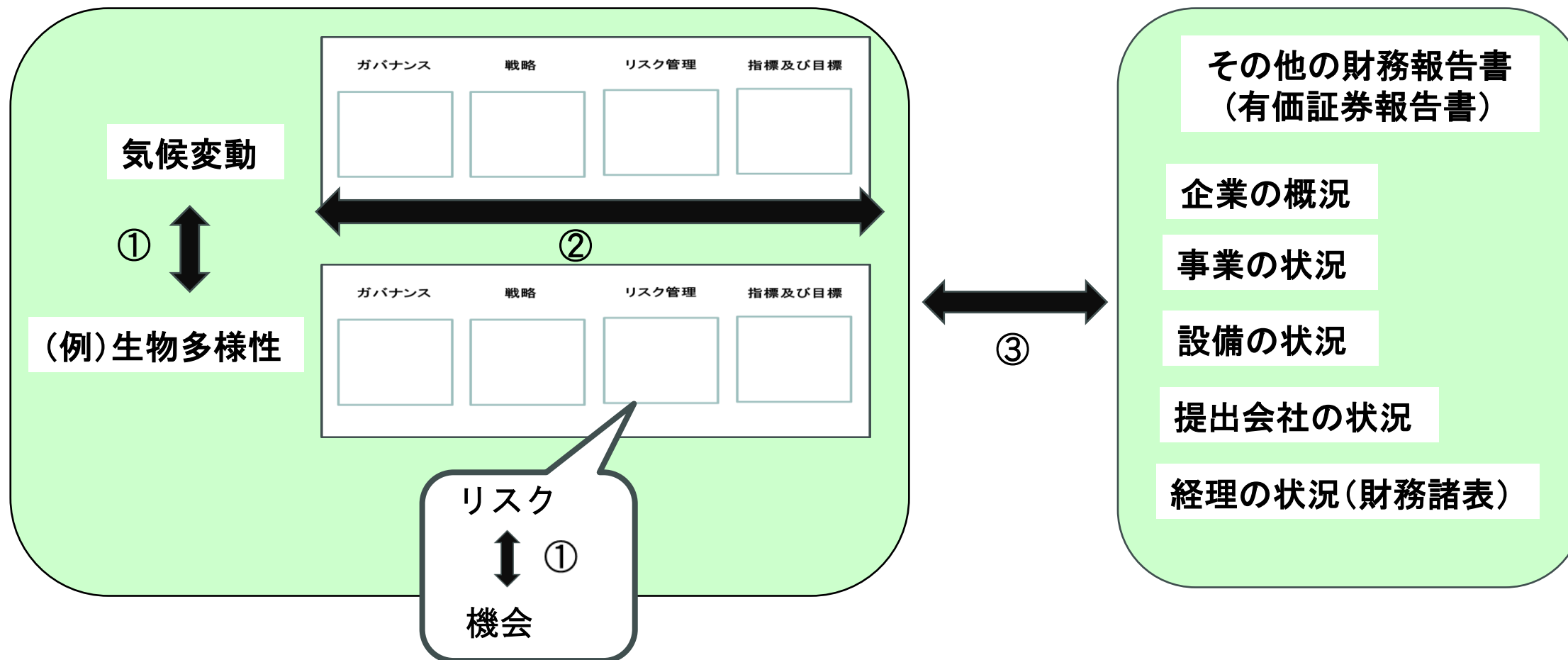
(ニュートラル)

制度対応に偏っているならば、他の要素を勘案し、自社にとっての最適バランスを考えながら取り組む必要。
企業にとって本来最重要なのは価値創造の源泉を問う「内部」では？

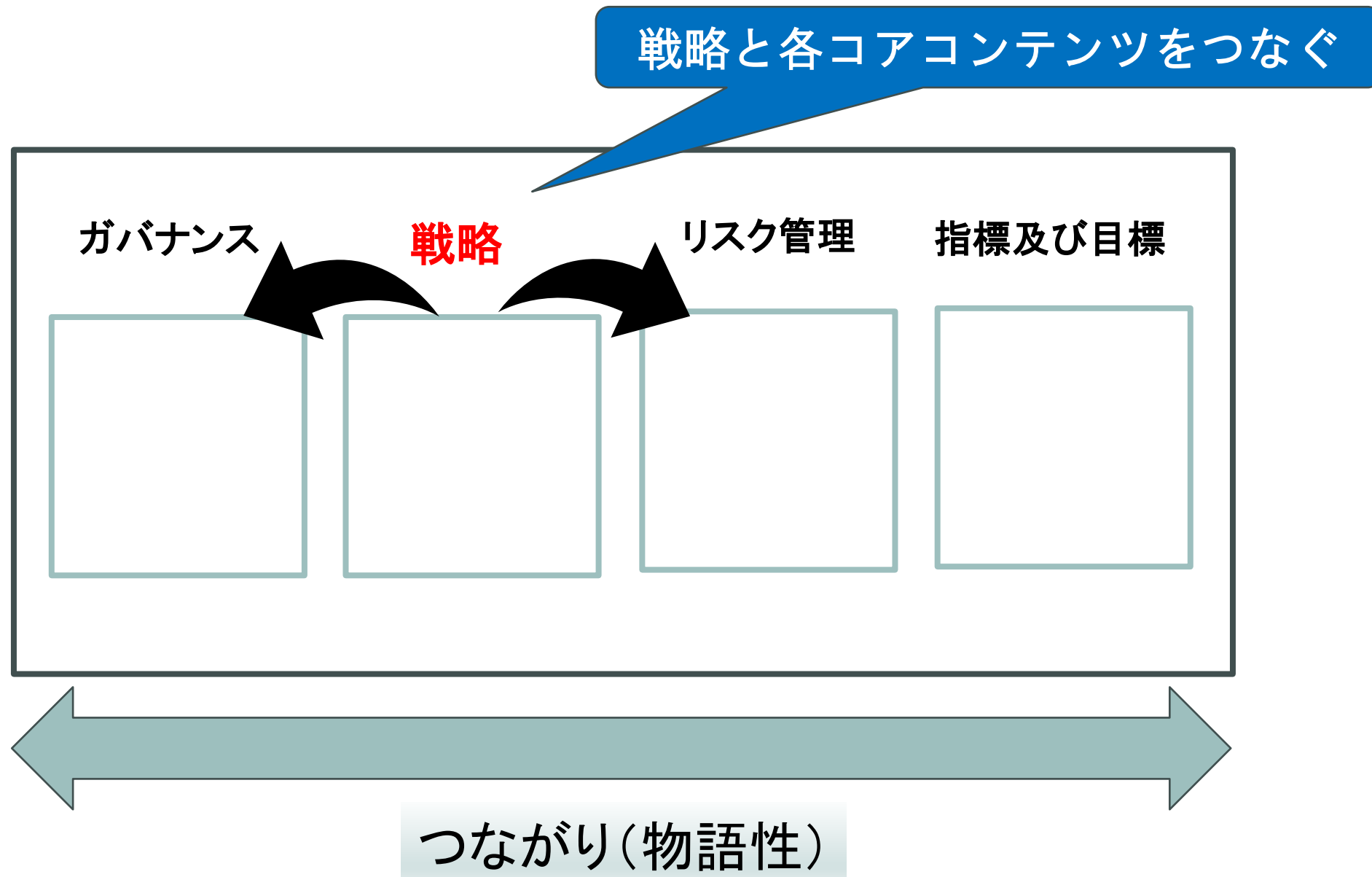
「つながり」概念整理

「つながり」は3つある

- ①情報が関連する項目
- ②サステナビリティ関連財務開示内
- ③サステナビリティ関連財務開示とその他の財務報告書の情報



戦略との「整合」の確認

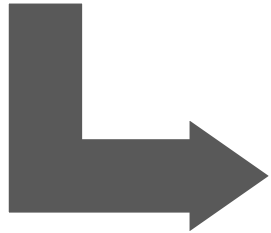


リスクと機会の開示

SSBJ基準では、リスク及び機会の識別・開示プロセスがルール化

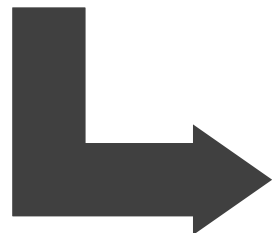
リスク及び 機会の識別

- SSBJ基準を適用
- SASBスタンダードの適用可能性を考慮しなければならない
- 参照・適用可能性を考慮できる
CDSBフレームワーク適用ガイダンス・他の基準設定主体の直近の公表文書
同じ産業又は地理的地域において事業を営む企業により識別されたもの



リスク及び機 会に関する情 報の識別

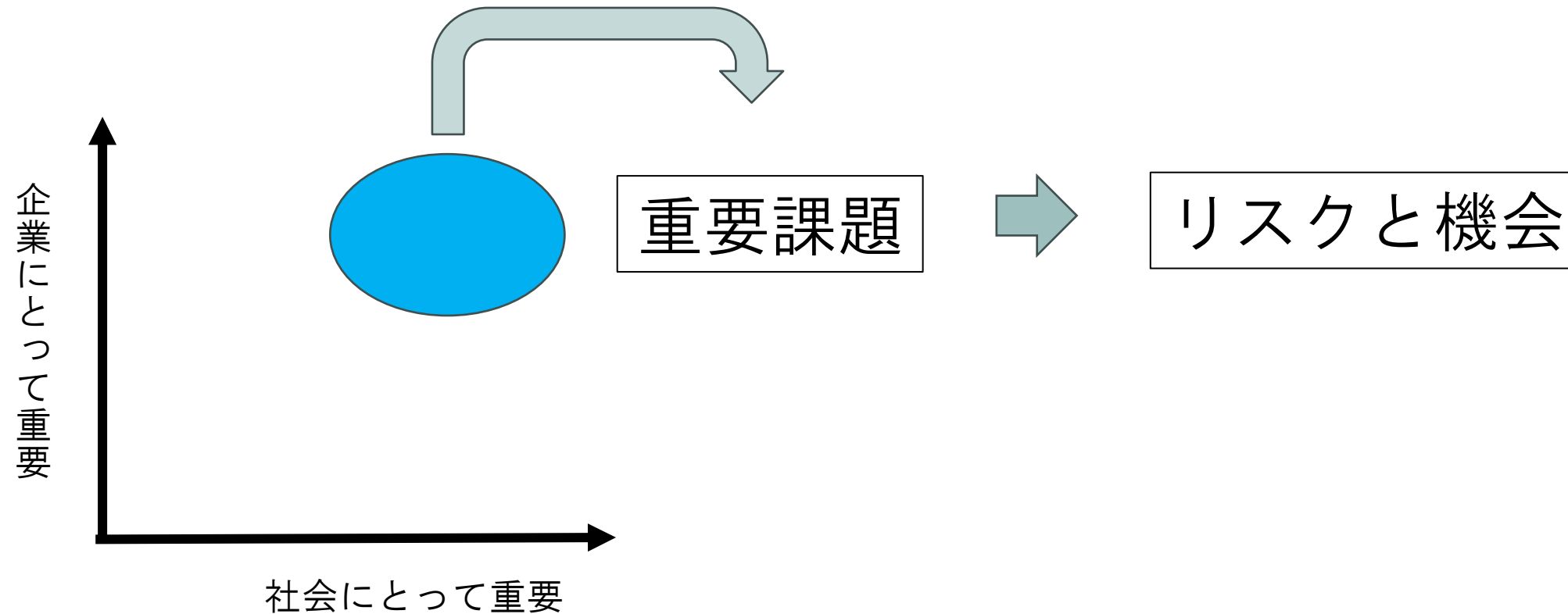
- 「リスク機会の識別」と同様
- 有用かつSSBJ基準に矛盾しない範囲で適用可能性を考慮することができる
GRI基準 ESRS



リスク及び 機会の開示

- 重要性のあるもの
一般目的財務報告書の主要な利用者が行う意思決定
に影響を与えると合理的に見込み得るもの

リスクと機会の識別の現状と課題

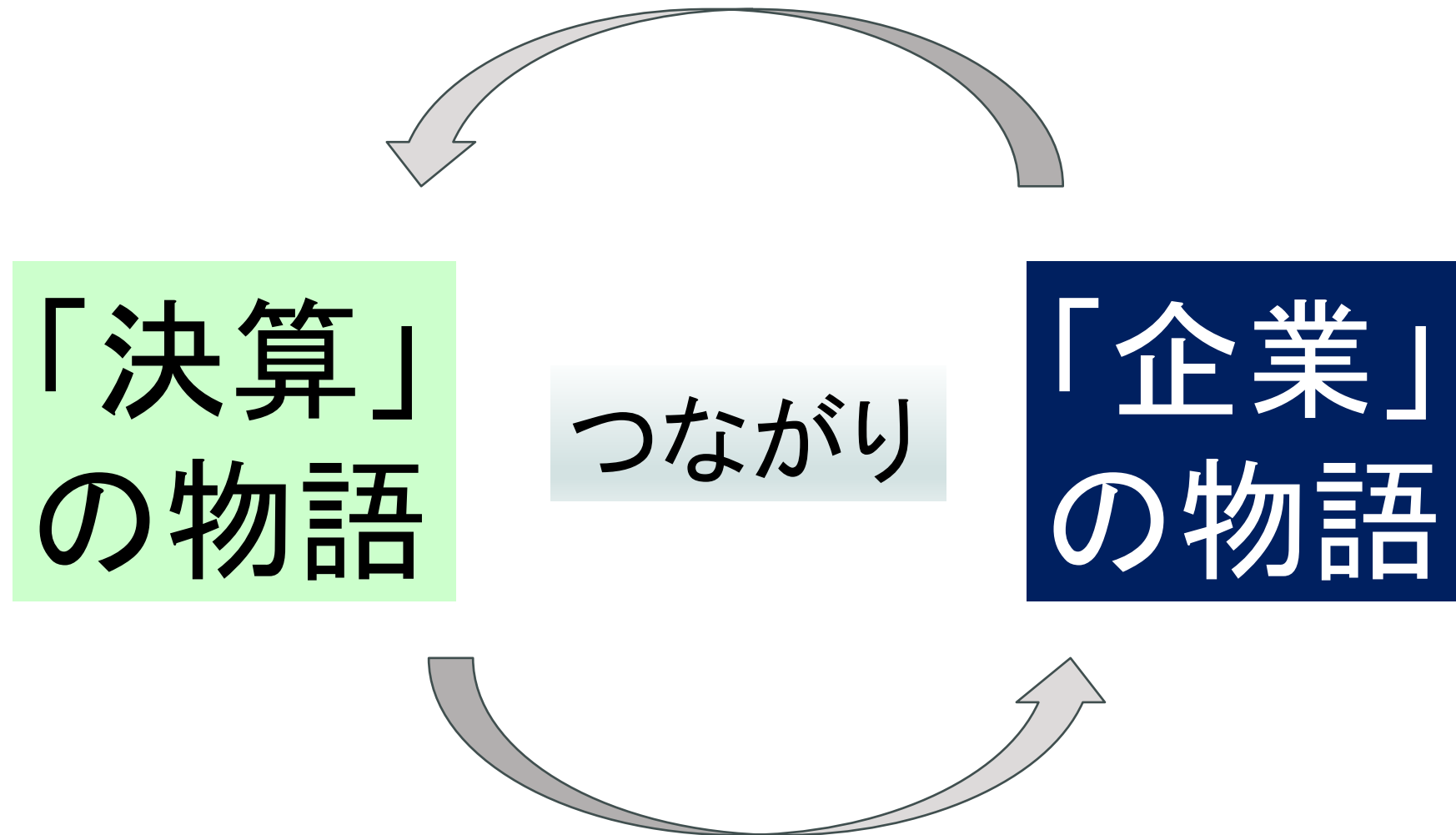


(課題)

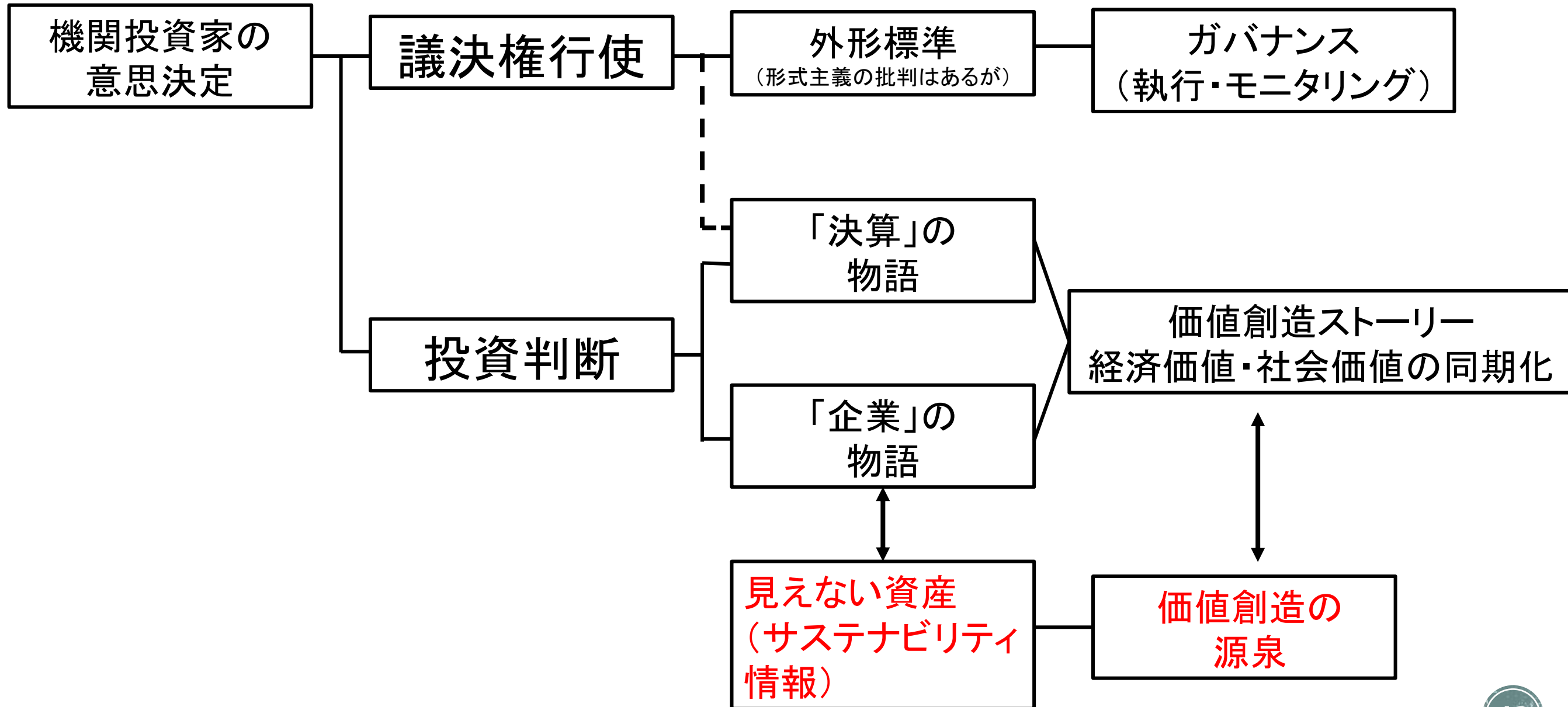
- ① 経営計画とサステナビリティ要素を考慮したリスク・機会や目標などが不一致
- ② 重要課題が類似しており、企業の独自性が欠如する傾向
(「The SDGs」のようになってしまう)
- ③ 総花的にリスク・機会を検討したはずなのに、「想定外の」という説明

【開示の全体最適　ー有報のハブ化ー】

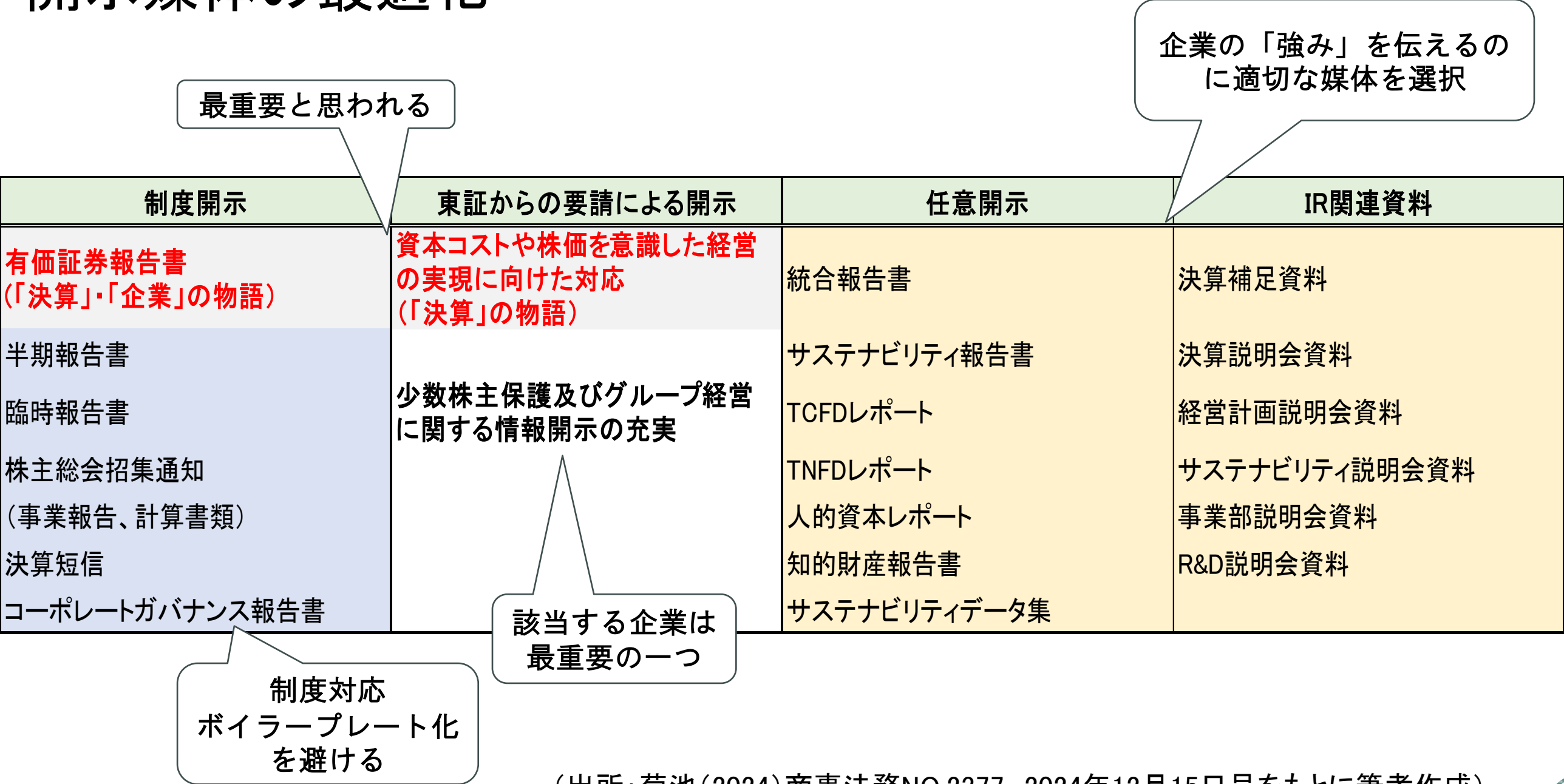
企業が語るべき2つの「物語」(価値創造ストーリー)



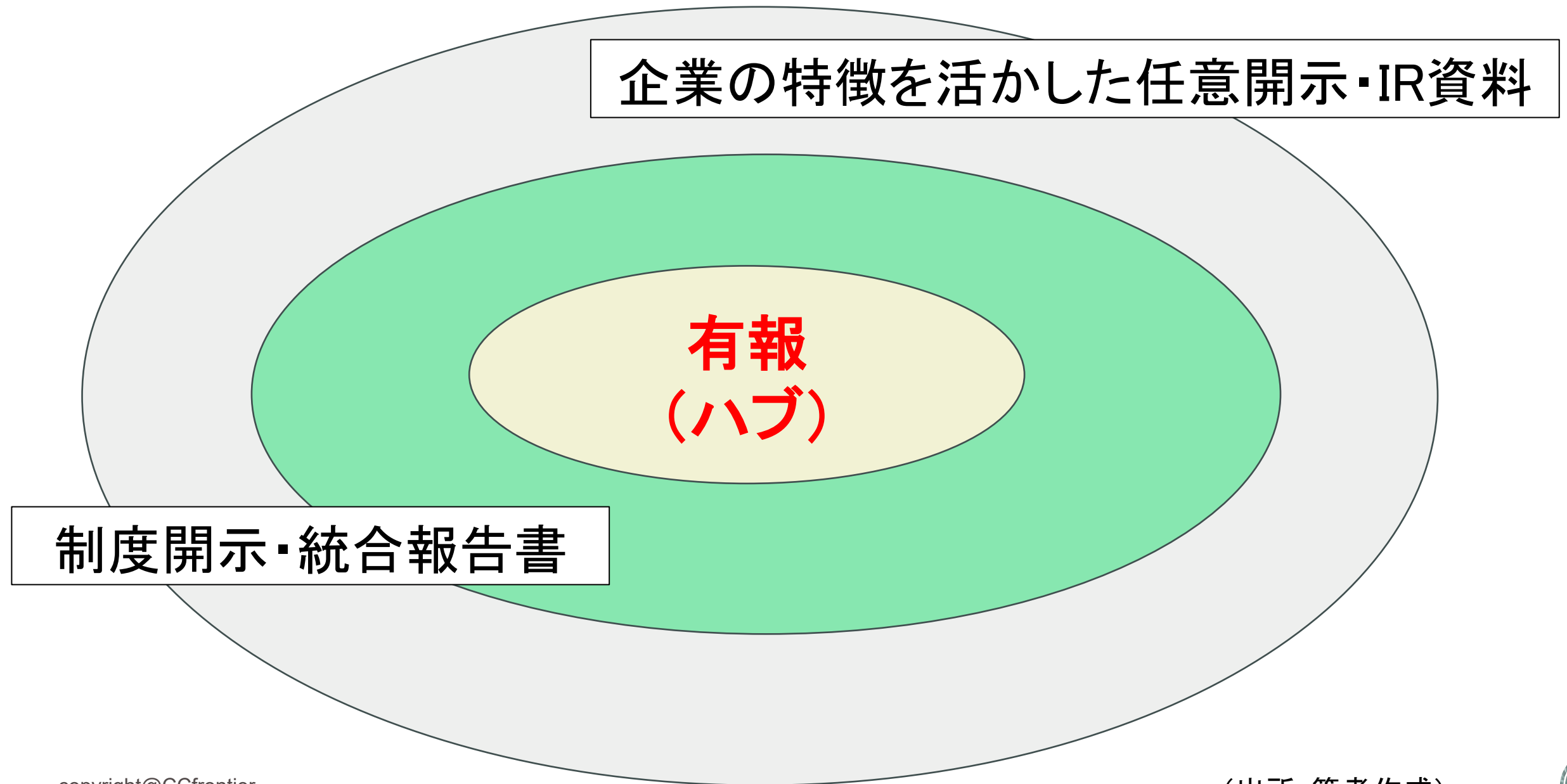
投資家が行う意思決定構造を単純化すると



開示媒体の最適化

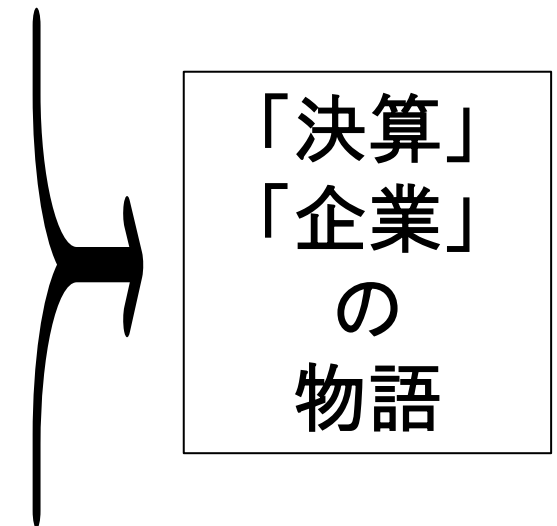


有報のハブ化



有報の構成

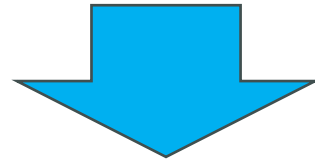
主な記載事項	記載内容
企業の概況 事業の状況 設備の状況 提出会社の状況	価値創造の源泉
経理の状況	価値創造の結果
提出会社の株式事務の概要 提出会社の参考情報	事務情報等



【おわりに：定量情報と定性情報】

「定量」と「定性」を「つなぐ」

- ✓ 定量：数字は抽象的であることを認識する必要
データベースのなかに特徴が埋没するリスク
- ✓ 定性：定量情報は結果であり、結果だけでは「物語」
が成り立たない。
具体性のある「物語」を伝えることが重要



- ✓ 意思決定者への伝え方を工夫する必要
- ✓ ポイントは「つながり」

ご清聴ありがとうございました。

留意事項

- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容等は作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保障するものではなく、また今後予告なく変更することがあります。
- 当資料の意見にかかわる部分については、作成者個人の見解であり、作成者の所属する合同会社Co-Creat Frontierおよび他の組織の見解を示すものではありません。
- 当資料の全部もしくは一部を第三者へ交付することはご遠慮ください。